現代社会ワークシート No.4　テーマ　環境（pp.12～15）

【解答例】

1．環境問題と国際会議

★（①国連環境人間）会議：1972 年@ストックホルム（スウェーデン）

・（②人間環境宣言）が採択

→自然との協調，人間環境の保全と改善をめざして努力することが要請される

★（③国連環境開発）会議：1992 年@リオデジャネイロ（ブラジル）

・別名（④地球サミット）といわれる

・（⑤持続可能な開発）の理念のもと，環境と開発の両立が議論される

【採択された条約】

(ア)「リオ宣言」

(イ)「森林に関する原則」

(ウ)「アジェンダ 21」

(エ)「気候変動枠組条約」

(オ)「生物多様性条約」

2．気候変動をめぐる条約

★気候変動枠組条約（⑥地球温暖化防止条約）：1992 年，地球サミットで採択

(ア) 第３回気候変動枠組条約締約国会議（⑦地球温暖化防止京都会議：COP3）

→国際的な枠組みで温室効果ガスの排出量を削減するべきことが合意

→具体的な取り決めである（⑧京都議定書）が採択，2005 年に発効

【京都議定書の内容】

・（⑨先進国）のみが温室効果ガスの排出量の削減目標を具体的に定めている

・京都メカニズムの活用を認める

A．他国の削減量を購入して自国の削減量に含める＝（⑩排出権取引）

B．他国で協力した削減量の一部を自国の削減量に含める（⑪クリーン開発メカニズム）

【京都議定書の課題】

・中国やインドなどの（⑫発展途上国）で二酸化炭素排出量が急増している，

・発効時点で最大の排出国であった（⑬アメリカ）が離脱

(イ) 第 21 回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）

→先進国，発展途上国を問わず，すべての国が参加する新たな枠組み（⑭パリ協定）が採択

→各国は自主的な削減目標を５年ごとに提出・更新していくことが義務づけられた。

【発展①】温暖化対策と温室効果ガス削減目標に対して，各国はどのような意見や立場の相違があるかまとめてみよう。（参考：教科書 15 頁）

【記入例】

・インドなどの発展途上国は，先進国がより多く温室効果ガスを削減するべきという立場である。一人当たりの排出量は先進国の方が多く，これまで多く温室効果ガスを排出したのは先進国であるからという理由からだ。

・気候変動によって生存を脅かされているツバルや国内の環境問題が深刻な中国などは早急な対策を望んでいる。

・EU は発展途上国への経済支援を行うなど削減に熱心だが，アメリカはパリ協定からの離脱を表明するなど先進国の間でも考え方に相違がある。

【発展②】これまでの学習をふまえ，地球温暖化への対策をどのように進めていくと良いと思いますか。国際的な取り組み，国の中での取り組み，個人や身近な集団の取り組みなど，複数の視点で考えてみましょう。

※持続可能な開発という理念を念頭に，小論文で書いた内容なども踏まえつつ，地球温暖化防止のための対策を考えてみよう。